

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北九州市立早鞆中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒801-0882

福岡県北九州市門司区清見 3-13-1

E-mail hayatomo-j@kita9.ed.jp

Website http://www.kita9.ed.jp/hayatomo-j/

幼児児童生徒数 男子 119名 女子 115名 合計 234名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ESDの視点に立った心の育ちを支える教育活動の推進」を学校主題として、環境教育、人権・道徳教育、キャリア教育を三本の柱としたESD推進による「心の育ち」を支える教育活動を未来へと継続し、さらに地域や家庭と連携し発展することにより、「持続可能な社会の担い手」としての生徒の育成を目標とした。具体的には、①学校における規律とよき校風確立のための活動、②環境の保全や美化のための活動、③生徒の教養や情操向上のための活動、④好ましい人間関係を深めるための活動、⑤身近な問題の解決を図るための活動、⑥ESD活動の交流を行った。

① 学校における規律とよき校風確立のための活動

○規範意識向上講習の実施（制服着こなしセミナー、非行防止教室、暴力団追放教室、薬物乱用防止教室）

○あいさつ運動（教師・生徒会＜毎日＞、全校生徒＜年三回＞、保護者＜年三回＞）

○部活動の活性化

○自学週間の設定

②環境の保全や美化のための活動

- 一人一鉢プランターづくり（年三回）
- 地域施設へのプランター寄贈（年二回）
- 環境学習（二年エコツアー）
- 土の再利用による菜園づくり
- 地域花壇づくり（年二回）
- 地域清掃（年二回）
- ペットボトルキャップ収集

③生徒の教養や情操向上のための活動

- 朝読書活動
- 道徳教育の充実
- 性教育講演会
- 創作童話絵本の製作及び小学生への読み聞かせ活動
- 人権教育（毎週金曜日校内放送活用）
- キャリア教育講演会
- 国際理解教育講演会

④好ましい人間関係を深めるための活動

- ふれあい合宿（一年）、農村民泊体験学習（二年）、保育体験（二年）、修学旅行（三年）、体育大会、文化学習発表会、合唱コンクール

⑤身近な問題の解決を図るための活動

- 生徒会活動の充実（生徒会新聞、図書館だより等定期発行）
- いじめ撲滅キャンペーン（年三回リボンメッセージ週間の設定、校内放送によるメッセージ活動）
- 災害地支援活動

⑥ESD交流

- 全国大会（福岡県大牟田）への参加
- 学校視察校への対応及び交流（大分宇目緑豊中学校、岡山市旭東中学校）



一人一鉢プランターづくり

地域花壇づくり

プランター地域寄贈



ペットボトルキャップ寄贈

性教育・いのちの授業

被災地支援活動（北部豪雨災害）



保育体験

農業宿泊体験

菜園づくり

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 放課後にボランティアの会としても活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、「ESDの視点に立った」とは、21世紀の人類の繁栄に必要な「環境」「健康・食育」「国際理解」「情報」教育等、これらの教育を結びつけることと位置づけ、「心の育ち」をキーワードにして、教育活動を進めている。そこで、市より「ESD推進」「環境教育」「人権教育」「道徳教育」の委嘱を受け、〇〇教育の教育目的もすべてがESDの視点に立った心の指導となることを意識し、指導方法を創意工夫し、実践している。特に育てたい8つの心を「感謝」「自律」「奉仕」「協同」「思いやり」「郷土愛」「自然環境を大切にする」「いのちを大切にする」としている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教育活動を年間計画に位置付け、教務主任が各担当と連携をとり、しかけを熟考し、企画立案後、校内運営委員会にて議論し、実践する道筋が、根付いている。どの職員もこれらの活動が、落ち着いた中で活気あふれる学校の状況を実感しており、使命感を持ち、取り組んでいる。異動により着任した教職員は、経験者の指導の様子を見、生徒の変化を目の当たりにして、2年目にはしっかりした実践者へと変貌する。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では、地域住民6名からなる早鞆中学校関係者評価委員会を設置している。評価委員には、学校の内部評価（保護者・生徒・教職員）を提示し、検証の視点として①学校の自己評価が適切に行われたか②教育活動、その他学校運営が適切に進められているかについて、検証していただいている。平成30年2月21日に委員会を開催し、2項目とも、6名全員から「A適切である」評価をいただいた。課題は、今後職員が異動で入れ替わっても、現教育活動を継続していくことがあげられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

毎月学校だよりで、ESDとしての活動内容を、地域及び校区小学校に発信している。両小学校は中学校の考え方に賛同しており、小中連携した教育活動に参加がある。また、地域の一つは、ESDの推進により地域の活性化をもくろみ、本年度、ミャンマー住民との交流会を実施した。さらにもう一つの地域は、伝統文化の継承に力を入れており、中学生を大いに受け入れてくれており、本校生徒が、地域貢献として、ダンス披露、伝承太鼓披露により、大きな絆が築けている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

毎年、教育委員会を介して、JICAや市外郭団体アーバンセンターの協力により、国際交流が持てている。本年度は、時間が合わず交流できなかったが、青少年赤十字より、国際貢献を行っている看護師により、世界の紛争地域等での子どもたちの様子などについて講演会を行うことにしている。本年度、地域市民センターがミャンマーとの交流の足掛かりが築けた。また本校も一昨年ミャンマーとの学校交流があり、来年度学校と連携して活動する計画を模索している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

本年度、ユネスコスクール入りを目指す2校の学校が視察に見えた。1校は大分県佐伯市宇美緑豊中学校、もう1校は岡山市立旭東中学校であった。2校とも取組が優れており、情報提供など今後も交流をお願いした。国外では、一昨年ミャンマーの学校と環境教育の取組について交流した。本年度、市の協議会に参加し、交流を図るとともに、本校の取組について発表した。また、本年度全国大会(大牟田)に参加したが、非常に収穫があった。来年度も近県の開催があれば参加したい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校は、12年前、市でも有数のいわゆる「荒れた学校」であった。しかし、現在、落ち着いた中で、安心して学校生活ができ、どの活動も全校生徒で活気に満ちた、そして感動溢れる市内でも有数の学校に成長した。特筆すべきは、昨年より生徒有志によるボランティアの会が発足した。自発的に学校内外の清掃等活動を行っている。また、本年度、地域のお年寄りへのお世話や痴呆老人の介助で、2名の生徒が市の善行表彰を受けた。その後も生徒が自発的に地域清掃を行った。生徒の心の成長が見られた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校の課題は、異動によって職員が入れ替わろうとも、現在の活動を継続することである。来年度、2学級減で、職員も減少する。現在業務改善も叫ばれているが、本校職員は、ESDの推進により生徒が変わることを実感している。そのため、事前指導、事後指導にしっかり時間をかける。生徒の成就感や達成感を感じる姿を見ると、やりがいを感じ、次の仕事にすっきりとチェンジする。とはいえ、定数が減少する中で、教師の疲労を軽減するため、活動内容の見直しの必要性も感じる。現在、各セクションで課題を踏まえ、構想を練っているが、あえて言うならば、本校にはESDの推進は必要である。現状の活動を継続しながら、また、他校にESDの良さを広めることも今後行っていきたい。